

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育みます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。

1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にする生徒を育てます。

2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。

3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

2 中期的目標

- 1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）
- (1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。
- ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科（数学・英語）では習熟度別授業を実施し、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。
- イ ICT機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。
- ※学校教育自己診断の生徒の授業満足度（「授業はわかりやすい」の肯定率と「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率の平均値）を、R 9 年度まで 80%以上を維持する。（R 4 83% R 5 88.7%、R 6 83.7%）
- (2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供し、社会貢献を理解させる。
- ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。
- イ キャリアパスポートを活用し、年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。
- (3) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
- ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた丁寧な指導体制により、確実な進路実現を図る。
- イ 3年間または4年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。
- ※R 9 年度まで学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（就職、大学・短大希望者総数に対する割合）95%以上（R 4 96.0%、R 5 90.0%、R 6 100.0%）を、若年無業者 5%未満をそれぞれ維持する（R 4 2.5%、R 5 16.7%、R 6 0%）。
- 2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）
- (1) 「社会で自信をもって主体的に生きる」ために、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。また、地域交流を通じて自己有用感を高める。
- ア 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。
- ※地域清掃活動を年 4 回（夏季と冬季に各 2 回）、地元保育園等との交流を年 2 回（夏季と冬季に各 1 回）実施することを、令和 9 年度に向け継続する。
- (2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることを気づかせ、すべての命を大切にする教育を行う。
- ア 社会に生きる多様な人たちと出会う人権学習を行う。
- イ 生徒並びに教員の健康・環境衛生の意識・関心を高める。
- ※R 6 年度は学年単位での人権HRを 2 回実施した。R 9 年度に向け教職員人権研修を含め、より内容を充実して継続する。
- (3) スポーツ大会や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。
- ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の高い参加率を定着させ、事業主、保護者の理解を得て、R 9 年度まで 75%以上をめざす。（R 4 76.1%、R 5 67.0%、R 6 64.0%）この行事の実施により、仲間と協同して堺の歴史と文化を学ぶとともに郷土愛を育む。
- イ スポーツ大会、文化祭などの高い参加率を定着させ、R 9 年度に向け 75%以上をめざす。（R 4 74%、R 5 71.9%、R 6 64.3%）これらの行事を通して仲間との交流の大切さを学び、コミュニケーション力の向上を通じて、豊かな心を育む。
- (4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。
- ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。
- イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。
- ※R 6 年度は教職員研修を 9 回実施した。今後も外部機関との連携を図り、R 9 年度まで必要な研修を実施する。
- ※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（進級・卒業生徒数／年度末在籍数）を R 9 年度に向けて 90%以上をめざす。（R 4 86.5%、R 5 81.1%、R 6 81.0%）
- 3 校務の効率化と働き方改革の推進
- (1) 学校行事を精選し、生徒に有意義でかつ教職員にとって過度の負担をかけない学校行事を精選して実施。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

[学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見]

学校教育自己診断の結果と分析〔R 7 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】84 人/107 人 質問数 12 項目 ・肯定的回答の割合 80%以上→11 項目 60-80%→1 項目 概ね生徒からは高評価を得ている。生徒たちからは、一定の信頼を得られるようにはなっている。そのなかで、「学校に行くのが楽しい」の項目が 64.7%と他の項目よりも下がっている。昨年度と比較すると－0.7%なので、大きく下がったわけでもない。昨年度は、一昨年度よりも 9%増となったことを考えると、昨年度を維持している。ただ、この「楽しい」をどう解釈するかが今後の課題である。学校へ行きたくなるという「楽しみ」をどのように方向付けするかを、次年度に向けて考えたい。学校での教育活動を否定的に考えている生徒が少ないといえるが、生徒にとって意義のある教育活動をすすめていけるように、前例踏襲ではなく、目の前にいる生徒たちに合った、教育活動を推進していけるようにすることが学校としての方向性を決められる。そのための方策を進めていく必要がある。 【保護者】11 家庭/106 家庭 質問数 11 項目 ・肯定的回答の割合 80%以上→9 項目 60-80%→2 項目 回答数が今年度はかなり減少した。form での回答をお願いしたところ、数が少なかった。連絡をやりとりする方法を、次年度からは変更する。その中で、保護者に対していろんな場面で伝達するようにし、こういうアンケートに答えてもらう土壌づくりをしていきたい。肯定的な回答が多いが、少数なので、学校へ携わってくれている保護者からの回答だと考えると、理解を示してくれている保護者だと推察する。そのため、ほとんどの保護者の声を集めることができるように、また、積極的にネットを利用した連絡ツールを用いることで、学校からの連絡、保護者からの連絡を円滑にできるようにしていきたい。それが、このようなアンケートでの評価につながっていくと考える。ただ、一定数の成果は、各担当が保護者との連携を深め、対応している点と考えられる。そのための情報共有や連絡はさらに結びつきを深めていきたい。 【教員】 14 名/16 名 質問数 20 項目 ・肯定的回答の割合 80%以上→12 項目 60-80%→7 項目 60%未満→1 項目 生徒への教育活動に関しては一定の成果と評価できるところにある。特に、学校行事、進路活動、保護者との連携、命の大切さやルールを学ぶ機会、教育相談体制、ICT の活用、授業力向上の機会が評価できる点である。さまざまな機会を通じて、教育活動について教職員で日常的に話し合う機会をつくることも大切である。常に情報共有することで、生徒情報が広まっている。しかしながら、教育活動全般にわたる評価をおこない、次年度の計画に生かしているという点では低評価となっており、先述の情報共有や報告・連絡・相談をしているという項目とともに、低調さが目立つ。校内での業務についての見直しはもちろん、次年度に向けての計画への反映をもっと図れるようにすることも必要である。人数が少ない分、情報共有は簡単にできるはずだが、その機会があるにもかかわらず、できていないと感じることが多いことに、今後の課題がある。一部の教員に仕事が偏ってしまう現状を打破していくためにも、組織的に動いていく体制づくりが必要で、お互いが納得できるように業務の分担も含めて考えていく必要がある。	【第 1 回 7 月 31 日（木）】 ○柔軟な指導（欠課数の説明や選択肢の提示）が生徒の安心感につながっているのではない。また、小さな成功体験の積み重ねがキャリア形成に繋がっていると実感している。 ○懲戒指導の件数が少ないことに驚きと感心をしている。自由な学びの場の設計は難しく、自由に見せかけた仕掛けが必要である。生徒に対して「自由にやっごらん」というのは生徒にとって負担になる。選択肢を提示し、その中で選ばせる自由が大切だと思う。 ○指導の少なさに驚くのではなく喜ぶべきである。昔と比べるのはよくないかもしれないが、以前の学校よりはずっとよくなっている。 ○政治参加の意識を育てる教育は重要だと思う。特に、定時制の生徒は社会に近いので、政治的教養や選挙への関心を高めてほしい。 ○先生方自身もやりがいをもって、教育に取り組んでいるとは思いますが、先生たちが楽しんで仕事をしてもらえれば生徒たちにもそれが伝わると思う。 同窓会会長より文化祭について好評だったことは聞いた。定時制も減っていく中で南大阪では三国丘高校定時制は普通科定時制として学びの場として重要な役割を果たしていると多々聞いている。私も協力していきたい。よろしくお願いします。 【第 2 回 10 月 31 日（金）】 ○アルバイトの面接がうまく話ができずに採用してもらえないという生徒がいるということだが、不登校の生徒さんは日ごろからコミュニケーションをとる機会が少ないと聞く。日ごろからコミュニケーションをとる機会が少ない生徒さんは、社会とつながる機会があることが大事だと思う。保育園訪問などを通じて、コミュニケーションをとる機会を増やしていくという取り組みは大事だと思う。 ○授業見学をしていると、敬語の授業をしていた。社会に出ても役に立つ内容なので、こういうことを授業ですることも大切だと思った。 ○高野線沿線に定時制がないので、三国丘定時制に行きたいという声を沿線の中学校で聞く。高野線沿線の学校が集まって、学校説明会などあってもいいと思う。学校の統廃合が話題に上がっているが、定時制を少なくする方向で動いている話も聞いていて、その是非を検討してもらわなければならない。学び直しができる専科の高校を作ってもいいのではという話もさせていただいている。自分は高卒の資格を取りたくて、30 歳を過ぎてからこの学校に来了。高卒の資格がないと取れない資格、高校を卒業していないとできないことがたくさんあった。だからこそ、学びの場の大事さを痛感している。小学校や中学校で授業の支援をしていた経験からも、本校で実施している習熟度別の授業も大変良いと考えている。 ○私学へ生徒が流れているという話を聞く。手の打ちようがないくらいだと。私学は卒業後の進路を売りにして強みを生かして生徒を集めている。定時制の生徒はどういった意識で入学してくるのか。卒業後、どこに向かっていこうとしているのか。現代の子どもたちは定時制で学ぶ意識が違う気がする。目標が定まらないまま、やるのは逆にすごいと思う。不登校経験や挫折した経験がある中で、学校の授業を通して成功体験を積み、自己肯定感をあげて、言われたことをできるようになることを通じて、学ぶ喜びを感じ、成長していくと思う。ぜひ、学校生活全般を通じて、定時制にくる生徒たちを育ててほしい。 【第 3 回 2 月 24 日（火）】 ○学校教育自己診断の項目で「学校に行くのが楽しい」という質問があるが、生徒によってとらえ方が変わってしまう。楽しみにしていたけど、いざ行ってみたら楽しくなかったとか、否定的な内容になってしまうので、「学校へ行くのを楽しみにしている」のような表現にしてはどうか。このように、アンケートによっては質問のしかたで、受け手がどのようにとらえるかが変わってしまう。教員の自己診断でも、「カウンセリングマインドを持って指導しているか」も、主語が何かによってとらえ方が変わる。教員が、自分のことだととらえると、自分はまだまだできていないと評価して低くなることになる。でも、それは問題意識を持っていると考ええると、よい傾向と捉えられる。もう少し、質問を考えたり、分析を考えたりしてはどうか。 ○保健室の来室者の多さは、どのような意味があるのかを知りたい。対応するのも大変だし、生徒たちが何を求めているのかも気になる。そこで、気持ちをととのえているのであれば、大事なことであるし、その対応方法もまた教えてほしい。 ○進路を考えるうえで、生徒の適正と希望が違う時があると思うがどのように対応しているのか。生徒が希望すれば、その進路にいかせるが、どうしても適正に合わない場合があると思う。でも、学校が、卒業した生徒でも話を聴いて、進路のアドバイスをしているということを知ると、面倒見の良さを感じる。 ○そういう対応を学校説明会でアピールしてもよいのではない。 ○S C さんは常駐ではない分だけ、なかなか対応が難しいと思うが、S C さんがいないときに、先生方で対応しているということで、感心している。

府立三国丘高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 学力伸長と進路実現（本校のキャリア教育の確立）	（１）学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用	（１） ア・授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートを活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議を実施する。	（１） ア・年２回以上研究授業を継続。〔４回〕 ・授業アンケートを年２回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。 〔２回〕〔前期 3. 31 後期 3. 33〕 ・授業力向上を行うための研修を２回実施。 〔０回〕	（１） ア・11 月 18 日に「国語」、12 月 1 日に「科学と人間生活」で２回実施した。（○） ・授業アンケートの平均値は前期が「3. 49」で後期が「3. 45」であった。前期がかなりの高評価であり、後期は数字上下がったとはいえ、高評価であった。（○） ・授業力向上のための研修は全体としては実施できなかったが、振り返りシートやお互いに講評することで、授業力向上の機会をつくることはできた。（○）
	イ 学ぶ意欲を引き出す	イ・多岐にわたる総合講座等を実施し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。	イ・図書室の有効活用。年度末のアンケートで肯定的評価 90％を維持する。〔98％〕	イ・総合講座等で利用はできている。アンケートの肯定評価 96％（○）
	ウ わかりやすい授業をめざして	ウ・わかりやすい授業をめざし、ＩＣＴ機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。	ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすい」の肯定率 85％を維持する。〔86. 3％〕 ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率 85％。〔92. 1％〕	ウ・91. 8％の生徒がわかりやすいという評価があった。（◎） ・93. 9％の生徒が、教え方に工夫をしている先生が多いという回答であった。（◎）
	エ 基礎学力の定着・向上	エ・英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。また、国語においても生徒の基礎学力定着、向上を図る。	エ・基礎学力診断テスト（１年国・数・英）の４月から２月での伸長率（〔[年度末平均]－[年度当初平均]〕／[年度当初平均]〕を 30％増とする。〔国語 12. 6％ 数学 28. 8％ 英語 75. 0％ 平均 38. 8％増〕	エ・国語 7％ 数学 31. 1％ 英語 114. 4％増であった。平均 50. 8％増であった。（○）
	（２）年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制	（２） ア・進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。	（２） ア・進路・担任合同会議を定期的（年５回以上）に開催。〔６回〕	（２） ア．進路・担任合同会議 6 回実施 （4/17, 5/22, 6/26, 7/17, 8/20, 9/24）（○）
	イ キャリア教育の推進	イ・多様な生徒のニーズに応えるべく、進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。 ・キャリアパスポートを活用し、進路意識の段階的醸成をめざしたキャリア教育を実施する。	イ・１・２年次生への進路説明会を年２回、卒業学年への進路説明会を年３回実施。 〔１・２年次生２回 卒業学年４回〕 ・各学年に応じたキャリア教育を年３回実施。 〔３回〕	イ．１・２年生に対しては２回実施した。（6/17 2/17）（○） 卒業学年に対しては４回実施した。（4/16, 5/15, 6/24, 7/15）（○） ・キャリア教育を次の日程で合計 3 回実施した。 （6/20 11/14 1/16）（○）
	（３）進路実績の向上 ア 広報活動	（３） ア・積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする	（３） ア・卒業生の進路先などを更新し、毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。〔実施済〕 ・緊急時にはＳＮＳ又は学習支援クラウドサービスを活用し適切に情報提供に努め、学校行事ブログを前年度以上の回数を更新する。〔32 回〕	（３） ア※広報用資料を制作し、企業開拓、学校説明に利用した。 ・情報提供を適切におこなった。学校行事に関するブログは 53 回更新した。（◎）
	イ 応募前職場見学の実施	イ・学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。	イ・就職希望者全員に応募前職場見学を２回以上実施。〔3. 1 回/生徒 1 人〕	イ． 3. 1 回／生徒（28 社/ 9 人）（○）
	ウ 個別指導体制	ウ・進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。	ウ・面接指導強化期間を設定し、就職・進学希望者全員への面談を実施。〔実施済〕 ・履歴書講座の実施。〔実施済〕	ウ・就職・進学希望者全員への面談を実施した。（○） ・履歴書講座実施済み （7/16（水））（○）
	エ 卒業予定者の若年無業者の減少	エ・ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。	エ・若年無業者（進学・就職等を希望しない生徒を除く）の割合 5％未満を維持。〔０％〕	エ・10％（△）

府立三国丘高等学校 定時制の課程

2 心の教育の充実 (モラル教育に重点を置いた教育体制の構築)	(1) 他者を尊重する姿勢の育成 ア ボランティア活動の実施	(1) 自己肯定感を高める目的で、生徒会を中心に下記を実施 ア・地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。	(1) ア・地域清掃ボランティアの生徒参加者1日10名をめざし、年2回(夏季と冬季)実施。 [合計76名、平均19名/日 参加]	(1) ア. 地域清掃ボランティア 夏季 7/16(水)12名参加 7/18(金)29名参加 冬季 1/13(火)32名参加 (◎)
	イ 地域交流の推進	イ・地元保育園との交流活動を計画・実施する。	イ・地元の保育園との交流会の生徒参加者1回7名をめざし、年2回実施。 [2回実施]	イ. 保育園との交流 7/22(火) 7名参加 1/21(水) 6名参加 (○)
	(2) 人命尊重の教育の推進 ア 多様性を学ぶ人権学習を実施	(2) ア・社会に生きる様々な人たちと出会い深く考える研修や人権学習を企画する。	(2) ア・人権教育推進委員会が中心となって教員向け2回[2回]、生徒向け2回実施[2回]。 ・SNS等情報モラルについて年1回実施。 [1回]	(2) ア.【教職員】2回実施(○) ①「高校生の労働問題とその対応・相談方法」6/23(月) ②ピースおおさか訪問7/25(金) 【生徒】2回実施(○) ①1・2「次世代の語り部による堺大空襲の歴史と平和学習」3・4年「「近畿高等学校統一応募用紙」から学ぶ同和問題の歴史と撤廃」6/25(火)②1/20(火) ②SNS講習会 4/10(木) (○)
	イ 健康への関心を高められる健康診断受検率の維持	イ・生徒の健康への関心を高め、疾病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を維持する。	イ・健康診断の受検率(内科検診、歯科検診、身体測定、尿検査、心臓検診の平均値)90%以上を維持する。[98.8%]	イ・受検率は、90%を維持している(○)
	ウ 健康・安全への関心を高める	ウ・生徒の健康・安全への関心を高めるため、生徒向け各種研修を実施する。	ウ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行い、生徒アンケートの肯定評価90%以上を維持する。[薬物乱用98.7%、交通安全講習97.3%]	ウ. 薬物乱用防止教育6/27(金) 生徒アンケート肯定率 99% 交通安全講習 1/13(火) 生徒アンケート肯定率 100% (◎)
	エ 美化意識を高める	エ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。	エ・全生徒による大掃除を年間2回実施。 [2回]	エ. 大掃除(○) ①6/3(火)実施 ②10/28(火)実施
	オ 環境への関心を高める	オ・生徒の環境への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。	オ・生徒保健委員会を年間3回実施。[2回]	オ. 生徒保健委員会(○) ①6/12(木)実施 ②10/23(木)実施 ③2/17(火)実施
	(3) 各種行事の参加により自尊感情を高める ア 郷土愛を育む	(3) ア・総合学習「ふるさと堺探検隊」を実施する。	(3) ア・「ふるさと堺探検隊」における生徒の参加率の75%以上の維持をめざす。[参加率64.0%]	(3) ア・12/6に実施して、参加率は74.8%であった。不登校生徒を除けば、80%を超える。(○)
	イ 仲間との交流を通し豊かな心を育む	イ・スポーツ大会、文化祭などの行事を活用し仲間との交流を通して、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。	イ・スポーツ大会及び文化祭における生徒の参加率それぞれ75%以上をめざす。 [スポーツ大会64.9%、文化祭63.6%] ・生徒の自己診断「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率80%以上をめざす。[87.1%]	イ. 行事参加率は、スポーツ大会が56%、文化祭は65.7%であった。不登校生徒を除いたら、75%を超える。(○) ・文化祭の肯定率は、90.6%であった。(◎)
	(4) 教育相談の充実と学校への定着・進級・卒業の支援 ア 三国丘(定)の存在を地域にアピール	(4) ア・多様な支援を必要とする生徒に三国丘(定)の存在を地域にアピールすべく広報を行う。	(4) ア・堺市内を中心に30校以上の中学校訪問を行なう。中学校教員対象説明会の開催、広報誌等を送付するなどして、本校の良さをアピールする。[訪問32校]	(4) ア・広報のための学校訪問をやめた。資料の送付をおこなった。73校。学校説明会を2回実施した。 12/1 1/26 実施
	イ 支援を必要とする生徒の情報共有	イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SCやSSWを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。	イ・教育相談委員会を月1回以上開催。職員会議等で月1回情報共有を行う。[1回/月]	イ. 教育相談委員会17回実施 (4/1, 4/4, 4/24, 5/27, 6/24, 7/15, 8/26, 9/26, 10/25, 11/7, 11/18, 11/27, 12/4, 12/23, 12/25, 1/21, 2/13) (◎)
	ウ 外部機関との連携強化	ウ・帝塚山学院大学大学院と連携し、ハートケアサポーター機能を高める。	ウ・公認心理師候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年60回来校し生徒支援にあたる。[94回]	ウ. 延べ95回にわたる実施ができた (◎)
	エ 相談機関との連携	エ・生徒、保護者からのSCやSSWへの相談体制や外部の相談機関等との連携を継続強化する。	エ・生徒、保護者からのSCとSSWへの相談についてそれぞれ年間回数20回以上をめざす。[SC 34回 SSW 75回]	エ. SC15回、SSW7回(△)

府立三国丘高等学校 定時制の課程

	オ 学校課題解決に向けて カ 相談しやすい環境づくり キ 進級・卒業率向上をめざして	オ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。 カ・担任、SC、SSW、教育相談委員会の連携システムを強化し、生徒が相談しやすい環境づくりを行なう。 キ・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。	オ・教職員向け研修を年6回開催する[9回]。 カ・生徒の自己診断「担任の先生以外にも気楽に相談できる先生がいる」の肯定率70%以上を維持する。[81.8%] キ・年度末の進級・卒業率（進級生徒数／年度末在籍数）90%以上を維持する。[81.0%]	オ・教職員向け研修は7回実施した（◎） 【生徒指導部 保健係】 ①エビペン研修会 5/15(木) ②職員 AED 研修 8/22(金) 【進路】 ①面接指導について 8/28(木) 【教育相談委員会】 ①「LGBTQ+の生徒の存在を認識した学校での取り組み」7/16(水) ②「支援を必要とする生徒の卒業後のサポートについて」10/28(火) 【人権推進委員会】 ①「高校生の労働問題とその対応・相談方法」6/23(月) ピースおおさか訪問 7/25(金) カ・肯定率は85.3%であった（◎） キ・進級・卒業率は、82.2%であった。（△）																				
3 校務の効率化と働き方改革の推進	（1）学校行事を精選。 （2）働き方改革の実行と推進 （3）報告・連絡・相談体制の徹底と教員間の相互信頼関係の構築	（1）生徒にとって有意義な行事の実施。 （2）教職員の心と健康を守るため、長時間勤務の是正を図る （3）教員間が互いに信頼しあえる学校の風土づくりに努める。	（1）生徒の自己診断「スポーツ大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率80%以上をめざす。[77.6%] （2）1ヶ月あたりの時間外在校時間の平均値15時間以下を維持する。[12時間20分] （3）学校教育自己診断の「組織として『報告・連絡・相談』が徹底されている」という項目については、80%以上をめざす。[40.0%]「意見を率直に言える雰囲気である」という項目については70%以上を維持する。[60.0%]	（1）肯定率は83.3%であった。種目を全生徒が公平にできるものに変更したことと、生徒会が運営するように工夫していた効果があった。（○） （2） <table><tr><td>4月</td><td>12:55</td><td>5月</td><td>9:26</td></tr><tr><td>6月</td><td>11:07</td><td>7月</td><td>8:27</td></tr><tr><td>8月</td><td>4:55</td><td>9月</td><td>10:04</td></tr><tr><td>10月</td><td>9:49</td><td>11月</td><td>9:30</td></tr><tr><td>12月</td><td>8:55</td><td></td><td></td></tr></table> 4月から12月までの平均値は9:28である（◎） （3） 「組織として報告連絡相談が徹底されている」69.2%であり、意見を率直に言える分に気61.5%であった。どちらもできているという数字ではなく、積極的に発言できる職場の雰囲気をつくる必要がある。（△）	4月	12:55	5月	9:26	6月	11:07	7月	8:27	8月	4:55	9月	10:04	10月	9:49	11月	9:30	12月	8:55		
4月	12:55	5月	9:26																					
6月	11:07	7月	8:27																					
8月	4:55	9月	10:04																					
10月	9:49	11月	9:30																					
12月	8:55																							